

## 令和3年度 第1回学校運営協議会 報告

- 1 会議 紙面開催
- 2 出席者 学識経験者、市教育関係者、地域住民代表、学識、地域教育関係者、保護者代表
- 3 議題 (1) 本年度学校経営計画について (承認事項)  
(2) 本年度教育活動の報告
  - ① 令和2年度進路実績について(令和3年3月の結果)
  - ② 各学年の生徒の様子(3) 保護者からの意見提供について  
(4) その他
- 4 協議
  - (1) 本年度の学校経営計画について 【承認されました】

本年度の取組みの重点について

### 1) 授業の充実 ～ 学ぶ意欲・探究心を育む ～

#### ① 観点別評価の試行

令和4年度より新学習指導要領への段階的な移行が始まる。本年度はその準備段階で、観点別学習状況評価を試行する年度となっている。知識・理解に偏ることなく、新学習指導要領に示されている3観点(①知識・理解、②思考力・判断力・表現力、③学びに向かう力・人間性)を評価していく。

大阪府教育センターの「パッケージ研修」を活用して取り組みを進めていく予定。授業の内容や定期考査の出題内容など、あらゆる教育活動の中で「観点別評価」と「指導と評価の一体化」を意識することになる。

#### ② ICTを活用した授業づくり

昨年度、ほとんどの教室にプロジェクターとスクリーンを設置することができた。国のGIGAスクール構想に向けたネット環境の整備工事、生徒への一人一台タブレット貸与がすすめられる。教育環境の変化の中、授業内容も大きく変わる。大阪府としても教員に研修の機会を提供し、教員一人ひとりがICTを活用できる環境整備を急いでいる。

#### ③ SDGsの課題解決に向けた取り組みを意識した教育活動

「総合的な探究の時間」を中心に、授業や修学旅行など、様々な教育活動の中でSDGsを意識した取り組みをすすめる。学校全体の教育活動の中でカリキュラムマネジメントの視点で実施していくことが必要だと考えている。

### 2) 豊かな人間性の育成

人権感覚を磨くこと、学校という集団生活の中で、多くの人と様々な行事に取り組むことでコミュニケーションをとる力など、人として生きていくのに必要な力をしっかり育ていきたい。コロナ禍の中で、人と人との接触が自由にできない状況下にあるが、感染対策を徹底することにより、十分注意を払いながら予定している教育活動を実施する。

### 3) 地域との連携

コロナ禍の中で、これまでの取組が途絶えた部分がある。新学習指導要領の中でも地域との連携を行い、生徒の人間性を育てることが求められている。いくつか実現に向けてプランを練っている。

① 藤白台小学校との連携

小学校ではすでに新学習指導要領を実施しており、相互に授業交流を行い、観点別評価についての議論や授業についての意見交換は相互に有益なものになると考える。また、運動会へのサポート、共同の清掃活動など児童・生徒間の交流もできれば、新たな気づきが生まれるなど、達成感や充実感を味わうよい機会になるのではないかと期待している。

② 箕面支援学校との交流

ここ2～3年実施できていないが、オンラインを活用してもっと密に交流ができるのではないかと相談を進めている。互いに知らないことを学びあう、他者理解の姿勢も今後重要となってくる。何ができるか、何がしたか、最初はわからなくても交流が始まることにより子どもたちの中に様々なアイデアが生まれるのではないかと期待している。

(2) 本年度の教育活動の報告 <各分掌長から>

① 今年度の教育活動について (教務主任)

次年度入学生より新学習指導要領に基づいた「観点別学習状況の評価」が実施される。今年度の重点的な取組として、次年度実施する「観点別学習状況の評価」に向けて、学校全体で評価方法の検討を行い、教科での取組・実施を通して、シラバスを作成する。

今年度は、4・5月で合わせて3度の休校があり、その都度、行事の変更や授業時数の調整などを行っており、今後も、教育活動が円滑に進むよう、分掌として取り組んでいく。

② 令和2年度卒業生の進路状況について (進路指導主事)

全体的に進路実績はこれまでの進学実績を大きく上回り、生徒の努力の成果が得られた結果となった。

③ 新型コロナ対策について (保健主事)

感染症対策の基本として、手洗いの実施、マスク着用、手指消毒の実施を掲示や放送などで周知する。また、昨年度末からの引き続き、昼食はHR教室か食堂で食べ、教室内では各自の机で前を向いてしゃべらずに黙食するように指導している。

生徒の健康観察も授業開始前5分を健康観察の時間として、教員が生徒一人ひとりの観察表を確認している。消毒用アルコール液も昨年同様に各フロアに3か所、体育館入口等に設置、手洗い場のハンドソープも数を増やして対策を強化している。

年度当初にCO2モニターを職員室と食堂、準備室内でも最も人口密度が高い数学準備室に設置し、室内の二酸化炭素濃度の測定をしている。

湿度計を全HR教室と展開教室に設置し、特に冬場などで室内が乾燥する時期に湿度を保つことを意識化させるため、見える化を行った。

④ 今年度の人権教育について (人権教育推進委員長)

1年生は新しい環境で良好な人間関係をつくるのが大切。近年、SNSをめぐる人権侵害が多発していることを踏まえ、スマホ安全教室を4月当初に実施し、スマートフォンの使用における問題事象について生徒が理解を深める機会をつくった。

2年生は、同和問題のDVD教材とプリントを使用し、「なぜ同和問題を学ばなければならないのか」について指導した。両学年とも性的マイノリティと在日コリアンの方の講演を予定している。生徒自身がマイノリティの置かれている状況を考え、人権侵害に気づき、それに対して声を上げるきっかけをつくりたいと考えている。

3年生は、進路に向けて進学・就職差別に向けた取り組みと、障がい者スポーツを通してアスリートの方と交流し、障がいのある人々との共存について考える予定。

⑤ 生徒会活動について (生徒部主任)

「生徒主体でさまざまな活動を進める」という方針のもと、執行部を中心に、クラス代表と議員を務める代表委員会や議会、各専門委員会(体育、文化、保健、生活、図書)で積極的に話し合いを行い、体育祭や文化祭などの行事を含めて進め、6月に行われる体育祭では縦(全学年)の繋がりを大切に、全員が朱・青・白・玄の4団に分かれ、全員が演舞・制作・実行係となり、計画を立てて進めている。9月に行われる文化祭では横(各学年)の繋がりを大切に、代表委員を中心にクラスや学年が協力し、企画を進めている。

また、部活動加入率は約9割で自主的で活発な活動を行っている。

⑥ 各学年の様子

【1年】 1年学年主任

1年生は、入学後すぐにオリエンテーションを行いました。学年より「スクールノート」等の説明、各分掌、委員会からの説明があり、みんなメモをとって熱心に聞いていた。

ひと月もたつと学校生活にも慣れてきたが、遠足が実施できなかったのは残念。秋の遠足を予定しています。現在、生徒は中間考査中で勉強を頑張っている。

進路実現に向けた取組としては、5月19日にスタディサポート(4/9実施)の返却、振り返り。英検IBA(5/11実施)の結果も返却などがある、中間試験以降、科目選択等の説明予定。

【2年】 2年学年主任

43期生は昨年度コロナ禍の中、異例の6月入学式という形で始まったが、文化祭、体育祭、遠足、球技大会などの行事を経てここまでは概ね順調に来られていると思う。

第2学年になり、部活動では中心となり進路も気になる時期に差し掛かってきた。先の見えない状況が続くが、何とか最大の活動である修学旅行を成功させて、いい形で最高学年に進めるように力を尽くす。

【3年】 3年学年主任

42期生もいよいよ進路を決める3年生となり、進路指導部と連携して、外部講師による進路講演会、進路ガイダンス、奨学金説明会、卒業生の話を聞く会、小論文講座などの取組を行っている。生徒も早朝から自習をするなど、意識が高まってきている。残念なのは、コロナ禍のため、行事が中止になっていることです。様々な学習をとおして学んでほしいと思っている。部活動では現在、多くの3年生が最後の大会に向けて頑張っている。

(3) 保護者からの意見提供について

特にありませんでした。

委員からの提言・感想など

(授業の充実 観点別学習状況の評価等)

- 新学習指導要領への移行が始まる中、観点別評価を意識した教育が求められる。先生方も切り替えが必要。
- 観点別評価の3つの観点のうち③学びに向かう力・人間性は、個人特性や人格的な部分と切り離すことが困難。評価者の主観が混入するのを避けられない難しい観点だと思う。単なる挙手やノートのとり方などの量的なところの指標ではなく、生徒達がどのようにして学習に向けて自分を律すること、意欲や関心をもっているかなど、学ぶための基礎的態度やレディネスなどを含む広い観点で、こうした観点を意識した教育が求められている。
- 新学習指導要領への移行に向けて、ご努力いただいていることに敬意。

- ・観点別学習状況の評価については、各教科の特色を踏まえ、観点ごとの客観的、具体的な「評価規準」の精度とその評価方法が「肝」だと考える。
- ・例えば、アクティブ・ラーニングが推奨される中で「ループリック」などもその1つだと考える。本年度、どのような試行を経て、どのようなoutputをされるのか、次回の協議会で、ご報告いただければと思う。

#### (授業の充実 ICT活用)

- ・GIGAスクール構想の中で、義務教育段階では既に4月から取り組みが進んでいる。高校でのICTの活用とは、内容も方法も異なっているとは思いますが、一度、視察に行くのもよいのではないか。
- ・「教員一人ひとりがICTを活用できる・・・」とありますが、環境整備とともに、どのような授業場面で、どのような活用をするか効果があるか等「オンライン授業委員会」の取り組みに期待する。次回の協議会で、進捗状況をご報告いただければと思う。
- ・GIGAスクール構想によりネット環境が整備され、教員研修が行われているとのこと。ICTを活用した授業づくりに期待。私の勤務校では5年前からノートPCが必携となりICTを活用した教育が行われているが、プログラミングが出来る者、情報検索に秀でた者などかなりICTの活用が進んでいる学生と、ブラインドタッチができずに授業のノートテイクがままならない学生もいるなど、ICTの活用レベルに開きが見受けられる。北千里生には、ぜひICTにより学びの幅を広げつつ、その活用技術も習得して欲しい。

#### (進路実績)

- ・進路に関する資料からは、四年制大学進学率が右肩あがり、一浪率は右肩下がりとなり、大学入試の易化が進んでいることが読み取れる。この状況は今後も進むと予測される。世間でいうところの良い大学に入学するための進路選択とは別の角度から、進路や将来を考える良いチャンスともとれます。これからの時代の新たな進路指導のあり方に期待。
- ・進路実績について素晴らしい成果を上げていることは、生徒の努力もありますが、先生方の指導の力が大きいと思う。来年も期待している。
- ・教育活動の報告の中にある進学実績の上昇は、私たちPTAにとって非常に興味深い。学校経営計画の中期的目標にある「進路についてのアドバイスをよくしてくれる」の肯定的評価の上昇は、受験生である生徒たちにとって、先生方のアドバイスが大きな心の支えになったことの表れだと思う。

#### (その他)

- ・不登校、中退、問題行動など、どのような状況なのか。また、どのような指導を行っておられるのか、関心のあるところ。
- ・授業参観の件ですが、今年度も授業力向上を目指し、「算数」の研究を進めている。
- ・児童の思考のズレや、既習の知識からのズレから問いを見出し、会話的で主体的な授業をめざしている。まだ2年めの研究だが、交流をお願いしたい。
- ・制約のある中での学校活動も2年におよび、今後も引き続き、制約を前提として教育活動を組み立てていく必要があること。また、資料にあるような国のGIGAスクール構想など、これまで以上のスピードで教育環境、授業内容が大きく様変わりしていることを実感した。また、大学入試制度も変更される中、並行して新学習指導要領への段階的な移行も始まっており、生徒たちも急激な環境の変化に戸惑うことが多いと思うが、引き続きサポートをお願いしたい。
- ・まだまだ、コロナ禍が続きそうですが、今までどのような状況でも生徒のため創意工夫で乗り切ってきた北千里高校。校長先生を先頭に教職員、保護者、地域の方々が一丸となって、さらに躍進を。